

立ったままお墓参りができるなどバリアフリー型お墓

第8回には身体障害者療養施設の車椅子でお参りできる一段高いお墓が入賞した。受賞者は新光苑理事長の西田良次さん（当時59歳）。身体障害者療養施設・新光苑が人苑者のために作ったお墓。車椅子でお参りできる一段高い位置に据えられたお墓が特徴。すでに6名が永遠の眠りにについている。建立者の西田理事長はく車イスからの世界



（車イスから見る街は、決して楽しく明るいものではありません。とても不安な気持ちに襲われました。ほんの少しの段差でも、車イスでは通れません）人苑者は、みな家族を考え、亡き後も、末永く菩提を弔う事が務めであると考え、車イスで、お参りできるお墓を作ろうと考え、石材店に相談。そしてついに考えていたデザイン、日本で一つしかないオリジナルのお墓が完成しました。墓石には、「感謝」、「信頼」、「愛情」の3文字を刻みました。これからも、人に対する優しさを忘れずに生きつづけていきたいと思っています。>

同じく第8回では、立ったままお参りができるお墓で山梨県甲府市の高相 剛さん（当時45歳）が受賞した。

く立ったままのお参りができること、お線香を立ててあげたい、お花をたくさん上げたいなど、本来のお参りの形を考え、居心地のよい安らげる空間を石材店様の協力で形にできました。>



第13回ではお参りしやすいバリアフリーのお墓で熊本県熊本市の北里 和利さん（当時49歳）が入賞した。91歳を目前にして父が亡くなり、苦勞して家族育

ててくれた父の想いを大切にしてお墓作りを考えていました。まずお墓の場所は父が阿蘇出身ということで、阿蘇五岳が見える花岡山に決めました。

次に石材店のお墓を見学したら、私のイメージとは違うお墓ばかりでした。お墓というより記念碑でした。ここにお願いしたらきっと父の想いを大切にしてお墓ができると確信しました。

母が80歳になり、やや腰が曲がり、車椅子でもお墓参りができるユニバーサルデザイン墓石に決めました。この墓石には桜御影石を選び、お洒落だった父にふさわしく、モダンで、明るく、美しいものになりました。仏石には「報恩謝徳」という文字を刻み、「受けた恩に報い、お参りして頂いた人に感謝し、お参りした人は先祖に感謝する」という意味を込めました。その下には妻の好きなスズランを入れました。

外柵には、父の阿蘇山や家族への想いを表現した「展望」という漢詩を刻み、さらにその隣りには漢詩を表現した大観望から阿蘇山の風景を刻んでもらいました。雰囲気がよくできています。このお墓にお参りすることで、亡くなった父や先祖に対面し、残された私達を見守ってもらいたいものです。

きっと父は、このお墓を気に入って、「千の風になって」という歌のように大きな風を吹き渡り、永遠に私達と共に生きてくれることでしょう。



第15回には年輩の墓参者に配慮したステンレスの手すり付お墓で、静岡県賀茂郡の村松 敏行さんが入賞した。神徒である当家の墓地は東京雑司ヶ谷にあります。十数年前父はその墓地を改葬しました。いずれ、そこに眠ると考えていたと思います。しかし晩年、家族と過ごした伊豆の地に、我が家族の歴史を刻むべく、新たに建墓することを、望んでおりました。

父の、希望は“デザインの良い墓”。そんな希望を叶えるべく、私共家族の建墓への日々が始まりました。縁あって、建墓に



ついで、石材店に相談したのは三～四年前の事であったと思います。その後も、何度となく石材店さんにはお会いする機会もあったのですが、東京に墓地があるという安心感からだったのでしょうか、結局、父が亡くなってから再度、建墓について、ご相談することとなりました。

建墓にあたっては、自身には何の予備知識もなく、かなり多くの本を取り寄せ、ネットでも情報収集し、霊園巡りもしました。デザインに拘ったものの、なかなか具体像が浮かばないところ、石材店から多くの専門的アドバイス、ヒントを戴き、半年以上の長きにわたり、お力添えいただきました。

変形な敷地の一部をうまく取り込んだ階段。年輩の墓参者に配慮したステンレスの手摺りが程良いアクセントになっています。幅広く斜めに立ち上がっていく石塀。二色の石のコントラストも美しく、前面の低い塀にはゆっくり腰掛けられます。シャープに掘られた水皿周囲は、広いお供物台としての役を担います。機能美…完成し、磨き込まれ、真新しく黒光りしている墓石を眺めると感慨深いものがあります。

この新しい墓地は、伊豆の地での、我が家の第二幕の歴史として、時の経過と共に、家族に機会あるごと想いと共に磨かれ、家族の歴史と共に、味わいが増し、そして、尚一層の愛着が湧いてゆくことでしょう。

家、家族の歴史と共に代々引き継がれ、事ある時々縁者が集い、そして故人の思い出に浸る一時を送る。そんな、場所にふさわしいメモリアルモニュメントの完成と満足し、心より感謝しております。